## 明治四十四年

### 一月十四日

●游泳会寒稽古会

瓊浦游泳協会の寒稽古会は前日曜に施行の筈なりしも都合ありて中止したれば愈々明日の日曜を期し港外皇后島に於て挙行の筈にて其順序は第一足撃、第二手繰游、第三抜数種、第四御前游、第五浮身、第六五百碼競游を行い一等賞として米国製貯金庫を授与し終つて池田副総裁の訓示演説ある由。壮観ならん。

### 一月十七日

●寒中の游泳

百余の健児、涛を破り
十数の女子、浪に遊ぶ

游泳の教師一両人が隅田川を泳ぐとて東京辺では新聞の前触大層盛んなるに方り我長崎の地にありては少年や少女の一団がこの極寒を物ともせず皇后島に五百ヤードの競泳を催したりと聞かば都人は胆を潰しやせむ。扨も其後さる程に瓊浦游泳協会は一昨十五日の日曜を期し皇后島にて心身鍛練の為厳寒の游泳稽古を為すべき旨会員に触れたれば当日正午と云ふに大波止に集りたる健児百余名と註せられ別に十数名の女子部会員も参加して海面より吹起る寒風に打ち笑みつ*海若さえ手捕にせんづる勢いは勇ましなんと言う計りもなし。斯くて一同屋形付の大型団平船に乗込みて曳く小蒸汽の船脚遅きに気を焦ち或は軍歌或は唱歌に足もとどろと踏み鳴す勇気凛々意気堂々。当日特に此挙を聞きて参観の為乗込みたる長崎高等商業学校教師清客李昌雨氏の如きは日本国民の元気恁るところに胚胎すとて*衷心感激したりしこそ道理なれ。程なく目ざす皇后島に上陸すれば池田副総裁は一同の前に揺ぎ出で、厳寒の游泳は長きに亘るを許さず又直に火に近づくべからず、游泳は二十分以内とし上陸直ちに乾燥せる布帛を以て身体を摩擦し其赤色を呈するに至りて止むべしと厳かに注意を与へ先づ甲乙両組の少年団に命を下せば待ち兼ねたりと云はぬばかりに我れ先にと衣類をかなぐり捨て碧潭白沫の起る辺へ入水とこそは躍り入り右に左に泳ぐ事二十分。次に女子部。次に初段班長助手助教師範等順次に模範游泳をなし終つて幹部の五百ヤード競泳に移りしが夏日九十日の鍛練の結果はここに現れ何れも同時に決勝点に着して優劣を判するに由なきより池田副総裁は他日之を決すべしと宣したり。以て競泳の目覚しかりしを想像するに足らん。これを終りて副総裁は

古人言有り。健康の体に健康の精神存すと。正宗も鉛にては銘刀となる能わず。木刀も芋ガラにては役に立たず。方今我国勢を按ずるに北は樺太より南は台湾の熱帯まで西は大陸に及んで領域を拡張したる今日我々日本国民たるもの之が経営の重任に当り心身を鍛練せずして可ならずや。伝え聞く欧米の文明を利導せしものは専ら鋼鉄の力なりと。吾等は諸君の身体をして鋼鉄たらしめ吾国文明をして世界の先駆たらしむべき任に当たらしめんと欲す。此冴寒蒲団を着用して往来するもの多き世の中に諸君が相率て勇気を振い来会したるは大に人意を強うするものと謂うべし。吾輩深く愉快とする処。今後益々身体を健やならしめ*治に居て乱を諼れざるに努めよ。

という意味の訓示演説を為し以て当日の寒中稽古を終りたり。此日船大工町の加藤翁は写真機を携帯して健児波間に躍り女子涛上に遊ぶ勇壮の状を各種撮影したれば広く有志に頒つと云う。当日臨場の男女子幹部は

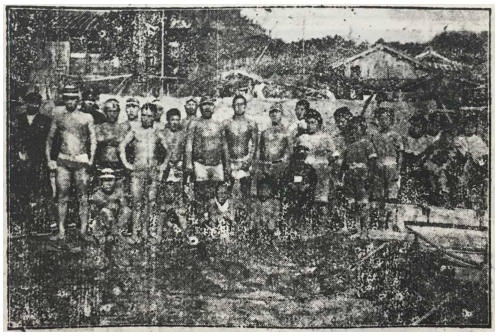
田中直治、岡本栄治、岡貫之助、沼川墾助、奥田光造、塚田喜代治、山田福松、手島清芳、米村義憲、吉田道義、清水善太郎、澤山市松、池田夫人、松尾常子、加藤富子、松尾絹子、

等にして甲乙両組の少年百余名参会せること前記の如し。この一挙蠢々たる青年婦女の惰眠遊逸を覚醒するに足る。乃ち詳記して以て弘く示すこと爾り。

**海若**　海の神様。

**衷心**　心の奥の本当の気持ち。
**冱寒**　凍り付くような厳しい寒さ。
**治に居て乱を忘れず**　平和な世にあっても乱世を忘れず準備をおこたらないこと。

**一月二十二日**



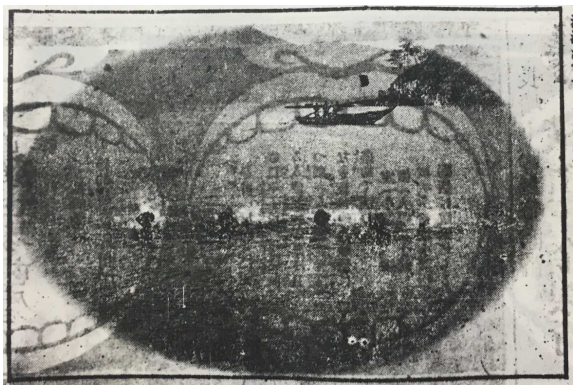
雪雲低く垂れて海潮黒ずみ渡り身を切る風は利鎌にて刺さるるばかりなる極寒の月の十五日というに港外鼠島にて五百ヤードの競泳をなしたる瓊浦游泳協会幹部諸氏当日の風貌は即ち之なり。

**一月二十三日**

此頃流行の長合羽に擬い猟虎の頸巻に包まれてもマダマダ寒いと縮みあがる青年の多きなかに極寒の十五日瓊浦游泳協会員が*三伏の夏日同様鼠島にて嬉戯する光景なり。人は心の持ちよう一つぞとは今更の如く感ぜらる。

**三伏**　夏の最も暑い時期のこと。

**一月二十五日**



五マイル七マイルの遠泳は尋常茶飯事と思える瓊浦游泳協会女子部の選手にしても極寒の游泳如何あらんと思わるるを御覧の通り悠々閑々と足撃の戯れは有髯男子の胆を奪うと申すに足る只だ驚嘆の外なし。

（市内船大工町西田支店撮影）

**七月十日**

●游泳開始

瓊浦游泳協会にては明十一日より鼠島に於て会員の游泳を開始さるが、本年中の大波止発船時刻は午後一時、同三時、同五時の三回なりと。尚日曜日には午前十時にも発船さる由。

**七月十一日**

●池田判事被調

長崎控訴院判事池田正誠氏は或犯罪の被告人に擬せられ、昨朝長崎地方裁判所検事局にて調べられたり。本社は之れ以外は報道する自由を有せず。

**七月十二日**

●鼠島の游泳始まる

瓊浦游泳協会は年々会員増加し進歩の蹟を示し来れるが、本年も既報の如く昨十一日より港外鼠島に於て其開始式を挙げたるが、例により非常の盛会なりき。尚入会希望者は大村町の商業会議所にて取扱いつゝあれば、就て承合すべし。又規定の各組に入り練習し難き人の為めには特別の場所に於て別科として教授する筈 りと。因に其会費は左の如し。

一、小学校生徒（十四歳以下は小学生に準ず）

七月分参拾銭、八月分五拾銭、九月分弐拾銭、余期八拾銭

一、中学校生徒以上

七月分五拾銭、八月分壱円、九月分四拾銭、余期壱円

一、普通会員

七月分五拾銭、八月分壱円、九月分四拾銭、余期壱円五拾銭

一、準会員　準会員費は一日拾銭とす

**七月十五日**

●游泳協会の近状

去十一日鼠島游泳場を開始したる瓊浦游泳協会は尚未だ学生の暑中休暇に入らざれども例年より会員の数を増加して、現在のところ日々九百名近くの入場者あり。来月に入らば例年に増せる盛況を呈するならんと云う。因に同会より昨年名誉会員に贈れる優待券（乗船券を兼ねて）は本年とのみ云わず永久に通用するものなりと。

**七月二十二日**

●游泳会組織変更

瓊浦游泳協会は創立以来池田正誠氏熱心其経営に当りたる結果、追年盛大に赴き今や三千の健児と数百の子女を練習せしむるの現状に至りたるが、過般池田氏一身上の事より協会は世人の疑惑を惹起し少からず打撃を被りしも、今回有志相寄りて各新聞社長（或は主筆）各学校長、斯道熱心家を評議員に推薦して評議員会を開き協議の結果、従来の規則に修正を加え陸軍中将男爵西島助義氏を会長に推挙して其快諾を得（副会長は目下人選中）監督として本社の西郷四郎氏を推し市収入役河村弘貞氏に会計主任を嘱し、内海静治氏師範長として指導に従うことに決定したり。同協会は之れによりて基礎益々鞏固となりたれば、将来の発達期して俟つべきなり。因に協会は近日父兄其他を招待して游泳大会を開く由。

**八月二日**

●競泳大会

来る六日鼠島に於て競泳大会を開く由にて当日は日曜殊に本年度第一回の競泳大会なれば定めて盛会ならん。今競泳順序を示さんに先ず鉄砲玉組の丁より始め丙組乙組と進み甲組は

甲組
- 一班　二五〇間
- 二班　三〇〇間
- 三班　四〇〇間

の競泳を為し次に対岸木鉢より助手班長等の早抜手游競争あり。又別科競争は飛入勝手たりと其他趣味ある水練競争、おかしき盲目競争、痛快なる打毬競争等の催しありと。競泳終れば次は当日の花たる芸泳数番あり。

芸泳順序

女子部　一、結髪泳　二、水書　三、揃御前泳

男子部
- 一、空銃発　二、水書　三、立泳（甲組全体）
- 四、浮身（甲、乙、丙、丁合併）　五、揃御前泳（助手、班長）
- 六、抜手游（助教）　七、模範游泳（師範）

当日幹部の部署は次の如し。

委員長　西島会長
総監督　西郷四郎
賞品係　小川評議員、河村師範、岡師範心得
審判係　内海師範長、並河師範
警護係　朝香助手、宮川助手

当日は会長西島中将評議員小川海軍大佐等も幹部と共に各部署につかるる故青年幹部等も活気よく働き随分油の乗った盛会を呈すべし。八月一日より出船時間割次の如し。

大波止出船　御前十時　午後一時
　　午後三時　午後六時

**八月五日**

●鼠島の壮観

瓊浦游泳協会は明六日の日曜を期し既報の如く其第一回競泳大会を鼠島に於て開催すれば、数千の児女が波を跋み水を蹴って勝敗を争うの状、真に壮観を極むべく蓋し当日の盛況想うべし。

**八月六日**

●游泳協会盛況

瓊浦游泳協会幹部変更の結果愈よ隆興の蹟を示し近来鼠島に集まるもの男女少壮総て一日二千七八百名と注せらるるが本日は予報の如く陸軍中将男爵西島助義氏協会長就任の披露式を挙げ且つ会員一班に対し訓示演説あるべく兼ねて本会第一回の競泳大会当日の事とて一万に近き群集を見るならむが東京に於ては寒中水泳に何流の教師某々が一五分浸りしとか大阪西の宮にては少女が日傘翳して幾十間を泳ぎたりなど京阪地方の新聞紙が大騒ぎして書き立て居れど当地游泳協会の少女は極寒の游泳数百間を物の数ともせず少女すら尚且つ十数浬の遠泳を行い水中結髪の離れ業を尋常茶飯事と心得居れば一ト目京阪地方の人士に実況を見せたらむには嘸や吃驚することなるべし。兎に角長崎に游泳協会の有るは此地の誇なると共に協会当事者の労を多とすべく併せて長崎市民一般に已が事業と思うて協会の隆盛を資けられ度きものなり。尚協会の基礎愈々鞏固になりたるを祝し大阪朝日新聞社よりは警護船として小伝馬一隻（附属品共一切）又大阪毎日新聞社よりは※海上打毬器一組と大姿見鏡一面を何れも寄贈したる由。

**海上打毬**　打毬は馬に乗り杖で玉を打ち自陣の毬門に入れる競技。現在は神事の一種としていくつかの神社で行われている。ここは「ポロ」に「打毬」の語をあてたもので、海上打毬＝ウォーターポロ＝水球と考えられる。

**八月七日**

●人の嶋人の山

游泳協会の盛観

昨日鼠島に催されたる瓊浦游泳協会第一回競技大会は同会創始以来の大盛観を呈したり。当日午前十時大波止出発の一番船、午後一時の二番船とも大団平四隻いずれも満船とも。満船ギッシリ詰りて身動きの出来ぬほどにて一番二番の両度に七千余人を運びたれば昨日一杯は本紙前号予報の一万を超ゆること幾百かに上れり。乃ち鼠島の汀は人を以て埋まり午前中は丁、丙二組の予定通りの競技あり。午後よりは乙、甲、初段以上男女の競技ありたるが其結果は次号に譲り正午休憩後幹部一同事務所前にて紀念写真をなし引継き会員一同を召集し会長西島中将正面に立ち西郷監督の紹介にて会長就任の披露を為したるが西島会長の所説要旨は、瓊浦游泳協会は精悍有力なる幹部諸士と精励熱心なる会員とにより結合され帝国稀に見るの大なる団体なり。予今幹部諸士の推薦によりて会長の任に就けるが予の微力諸士の期待に背かんを畏る然れども有力なる幹部諸士の援助により此重責を完うし本会をして愈よ興隆せしめんと欲す若し夫れ水練の効力に至りては予の呶々を要せじ或は精神を修養し或は身体を健全にし個人身心の堅固之によりて享受せらる。斯事ありて国家擁護の責を完うし得べし。諸子此意を体して一層勉黽されんことを望む云々と。西島会長訓示を終りて自ら音頭を取り協会の万歳を唱え一万の会集之に和せば遠く海を渡りて大波止に波動あり次に内海師範長の音頭にて西島会長の万歳を三唱するに会集の気自ら昂り三唱五唱幾度か之を繰返しぬ。此日西島会長はカーキ色の軍服に勲二等旭日重光章と功二級金鵄勲章を肋間に掛けたるが銅色せる少年、赭顔の少女に囲繞されて万歳を絶叫せらるるに際し云い知れぬ喜色は其面に溢れたり。昨は三軍を叱咤せる老将軍今は慈眼を垂れて鼠島の餓鬼大将！刹那の光景筆紙の直に尽し得べきにあらず。副会長小川機関大佐、会計河村海軍少佐いずれも軍服に勲章の本綬を佩びて将軍の左右にあり之を取囲む幹部の赤裸々なると対照ことに妙なりき。

**囲繞**　まわりを取り囲むこと。

**八月八日**

●鼠島の大競泳

▽当日の優勝者

一昨日の瓊浦游泳協会第一回競技大会が空前の大盛観を呈せし事は前号記載の如くなれど今更めて当日競技の模様を紹介すれば左の如し。

▲競泳の光景　当日午前十一時より開始す丁組一二三班、丙組一二三班六班の競泳を午前中に了し中食後午後一時の船到着し乙組、甲組の競泳に進めり。其の優勝者左の如し

△乙一班　一等水田、二等高野、三等武藤、四等土井、五等吉田△同二班　一等池内、二等森田、三等平田、四等稲枝、五等山崎△同三班　一等山本、二等一の瀬、三等松田、四等大石△甲一班　一等島田、二等井上、三等山城、四等岡部、五等辻山△同二班　一等鶴田、二等下野、三等米倉、四等深堀、五等長瀬△同三班　一等普賢寺、二等乗富、三等熊本、四等島谷、五等八牧（距離乙一班百間、同二班百五十間、同三班二百間、甲一班二百五十間、同二班三百間、同三班四百間）

次に女子部丁丙乙甲の競泳に移る。同甲組の優勝者は一等竹村、二等藤野、三等笠、四等山崎、五等松尾（距離百二十間）次に飛入勝手の分●●●●課競泳に移る。優勝者は一等中川、二等永田、三等藤野、四等酒井、五等横田（距離百間）次に甲一班早●●抜手●●競泳に移る。優勝者は一等井上、二等鬼塚、三等辻山、四等山城、五等松尾（距離百間）次に甲二班の盲目●●●●競泳に移る。優勝者は一等下野、二等鶴田、三等深堀（距離二十間）次に甲三班水練競泳に移る。優勝者は一等奥田、二等普賢寺、三等鈴木、四等平石、五等熊本次に女子部●●●●●●初段競泳に移る。優勝者は一等原田、二等川崎、三等松本（距離百間）次は当日の花たる男子部●●●●●●初段競泳三百間に移る。優勝者は一等薄井、二等外尾、三等松本、四等田中、五等佐野なりしが右終って甲乙合併紅白打毬競技（大阪毎日寄贈）及び西瓜取あり。共に白軍の勝利に帰したるは目覚ましくして又最も看衆を喜ばせたり。

▲芸泳ぎ　に移りては女子部初段川崎、原田、松本の揃御前泳ぎ、助手

盧桂卿、松尾キヌの水書、女子部の花たる結髪泳ぎは助手今村レン、鈴木エツ、加藤トミの三名にて十五分を費し見事に結び上げたり。つづいて補助、助手の花傘泳ぎ及び林檎剥あり。男子部、甲組全体の立ち泳ぎ足撃、甲乙丙丁合併の浮身、足撃、甲三班島谷賢次郎、初段岩永正男の空砲発射あり。班長の水書揃御前泳ぎ助手の早抜き泳ぎ手繰泳ぎあり。次に師範心得岡氏を先頭に助教仁戸田、山田、塚原、手島諸士の揃抜手泳ぎあり。加藤師範の模範游泳としての御前泳ぎ及び田中師範の艶抜手泳ぎ最後に鈴木、並河、加藤、田中師範、岡師範心得五名の配膳泳ぎあり。終に幹部一同に対し会長より慰労の辞あり。全く閉会を告げたるは已に七時暮色蒼然たる頃なりき。当日午後三時より南風荒み波浪高く来会者多かりしに拘らず何等の事故なかりしは西島会長の配慮西郷監督の処置幹部一同の熱情の然らしめし処にして参観の父兄有志は大に満足せるるが最終便の大波止帰着は夜九時を過ぎたり。

**八月八日**

●海中游泳歓迎

大阪毎日新聞社主催九州沿海見学船琉球丸は一行二百余名を乗せ本日博多より佐世保を経て午後三時半当港へ来着につき瓊浦游泳協会甲組以上の男女会員数百名は港口まで泳ぎ出し水書、日傘行列、其他の方法を以て歓迎すべしという。陸上の歓迎には一行今まで数多く出会いたるべきも海中にて歓迎さるることは空前。而して或は絶後の事なるべきにより一行嘸や驚嘆することならん。

**八月十日**

●海上歓迎盛況

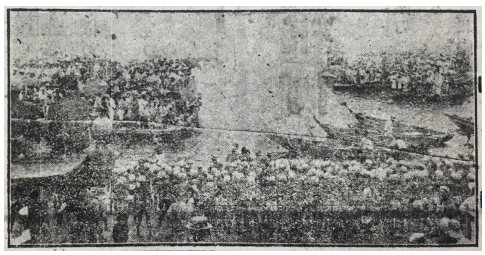
一昨日午後三時半大阪毎日新聞主催見学船（二百名搭乗）琉球丸が博多より佐世保を経て当港に入るに際し、瓊浦游泳協会員は海上歓迎という未曾有の盛挙を以て之を迎えたれば、見学船内の一行悉く登舷して其勇壮なる光景に驚嘆したり。之より先き撰抜されたる男女の会員は鼠島より高鉾島に至りて入港今や遅しと待構え居るとき同船入港の合図ありたるより、先ず第一に男子甲組立泳にてWELCOMEの大額を捧げ此左右に女子甲組凡そ二十名之また立泳にて青緑の枝を持し、以て歓迎門に擬えたり。之を先頭となし第二序列は男子乙組の浮身、第三序列として男子初段組及び甲組選手は空銃発射して祝砲に模し、次に左り神崎鼻方面に男子助手班長等『祝』『大』『阪』『毎』『日』『見』『学』『船』『安』『著』を水書し、其次列にて女子部初段以上の面々また『祈』『前』『途』『航』『海』『之』『安』『全』を水書し、而して其左方に女子甲組数十名は日傘行列をなしたり。されば東西の延長実に数百間に及び壮観云うばかりもなし。始め琉球丸は徐行したりしも、此歓迎を見るや全く停船したれば、海中より万歳の声起り船上また之に和したるに際し恰も三番帰船（大波止へ帰る）の鼠島を発するありて、一千の健児万歳を唱和しければ壮観誠に言語に絶せり。斯くて琉球丸の再び行進を起すを遊泳しつゝ見送りて、会員は鼠島に帰り見学船は港内に投錨せるが、予期の如く海中の歓迎には大阪見学生一行感嘆を禁じ敢ず、上陸しても此噂のみなりしと云うが、女子部の水書には一層驚嘆したりきという。

**八月十四日**

八月六日瓊浦游泳協会に於て会長西島陸軍中将就任披露の訓示演説

（船大工町宮崎写真館撮影）

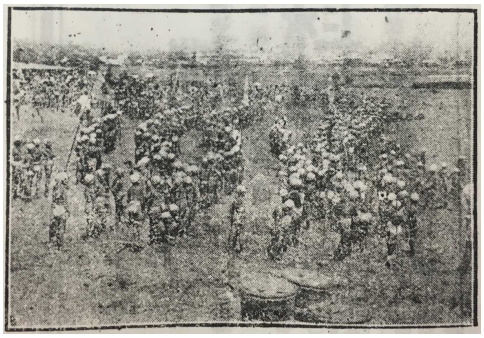
**八月十五日**



瓊浦游泳協会競技大会当日（八月六日）二番船到着の盛観

（船大工町宮崎写真館撮影）

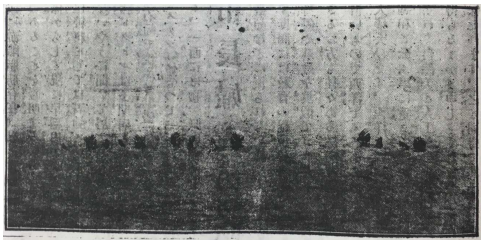
**八月十六日**



瓊浦游泳協会丙丁二組の整列

（船大工町宮崎写真館撮影）

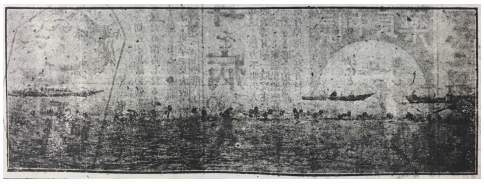
**八月十七日**



鼠島游泳大会女子部林檎剥き

（船大工町宮崎写真館撮影）

**八月二十一日**

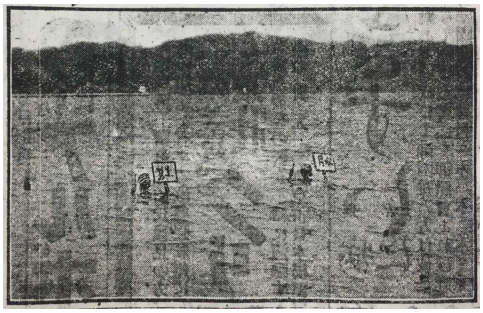


鼠島の*西瓜取り

**西瓜取り**　一個のスイカを奪い合い相手陣の筏に乗せれば勝ち。

（船大工町宮崎写真館撮影）

**八月二十二日**



游泳協会女子部の水書

（船大工町西田支店撮影）

**八月二十六日**

●游泳第二回大会

瓊浦游泳協会は来廿七日本年の第二回競技大会を催し競泳、芸泳以外に左記の余興を催すと云えば第一回に劣らざる大盛況を呈すべし。当日は特に御前九時、十一時、午後一時、同三時鼠島行（大波止より）小蒸汽曳船を発する筈なりという。

△男子部▲二人三脚▲大名行列▲旗取競争▲提灯行列▲障害物競争▲手足搦▲綱引▲源平土器割

△女子部▲人命救助▲難破船▲果物皮剥▲花笠行列▲提灯行列

**八月二十七日**

●蒙古王と鼠島

▽一場の演説会員を鼓舞す

代議士佐々木安五郎氏は県下遊説の帰途本市緑屋に投宿せしを幸い一昨廿五日監督西郷四郎氏の案内により当日午前十時の船にて瓊浦游泳協会の会場なる港外鼠島に到り老若男女千余の会員が勇ましき游泳振を見て感嘆したるが会員も亦遠来の珍客※蒙古王来に対し歓迎の意を表さん為特に『歓迎佐々木代議士』の八文字を水書して観覧に供し一層同代議士の感興を深うせり。斯て同代議士は会員一同を集め大要左の意味の演説を試みて大いに鼓舞激励する処ありたり。

予は代議士佐々木安五郎也。本会の会長西島将軍とは同郷。西郷監督とは旧来の知己也本日は此縁故ある諸氏の統率せらるる此盛大なる游泳会に臨み目覚しき諸子の游泳振を見るを得て予は実に無上の愉快を感ずる也。一体此游泳という事は日本人に取て最も必要なるものにして四面海に接せる我国人は海を経ずして世界何れの国とも交通し能わず。去れば我国の発展を期し富強を図るには海を渡って世界各国と交通せざるべからず。従って我国民は最も海に慣れて居なければならず。其処で此游泳なる物が全国に非常の勢を以て勃興しつつあるは国家の為大に欣ぶ可き事なり。又此游泳は各個人の体格の発達にも大いに宜し。予は先日大阪浜寺の游泳場を視察したり。丁度臼杵游泳会の女子部が来た。此女子連は体格非常に発達し従来日本婦人の※通有性なる脚部の短縮せる事無く誠に好く発育して居た某外国人は是を見て游泳の効果の偉大なるに基因すとし非常に感心せり。一体日本人は西洋人に較ぶると実に小さい者である。而し昔はグッと大きかった。日本武尊や加藤清正の如き豪傑などは実に大きかった者なり。然るを徳川時代になりて座する為に膝を折る習慣を付たから次第に脚部の発達を妨げ体格の矮小を来たしたりも元来座するという事は祖先に対する礼儀なるに此習慣を付たる故我国人の体格に非常の欠点を生ぜしめたり。又日本人は昔から海戦に於ても実に偉かった。彼の元寇が襲来せし時河野通有という豪傑が僅か数人の部下を率いて敵艦に乗込み敵を※鏖殺し遂に元の国へ生還する者三人というに到っては実に我大和男子の海に於ける勇武を発揮せしものにて痛快の極なり。日清、日露の大戦を経て世界の一等国となれる我日本の将来は益々海との密接なる関係を有するに至る。故に諸子は大いに游泳を練習して海に慣れ進んで将来我国家の為尽されん事を希望す。終に臨み国風一首を残さん。

何事も学ばば底も究むべし
龍の顎の珠を取るまで

**蒙古王**　蒙古（モンゴル）を探検したことで蒙古王のあだ名がついた。

**通有性**　同類のものに共通して備わる性質。

**鏖殺**　皆殺しにすること。

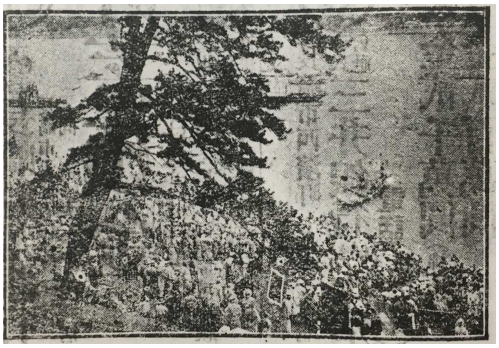
**八月二十八日**

●游泳大会盛況

瓊浦游泳協会第二回游泳大会は既報の如く昨廿七日の日曜を以て開催されしが、毎便船共に人の山を築き前回にも勝りし人出にして非常の盛況を極め会員の競泳、芸泳及び余興等何れも大喝采を以て迎えられ、参観人をして今

更の如く会員の進歩著しきに驚嘆せしめたり。

**八月二十八日**



鼠島游泳競技大会乙組三百間競泳
（船大工町五十九番地雑貨卸商西田支店撮影）

**八月三十日**

●第二回游泳大会

瓊浦游泳協会にては去る廿七日第二回競泳競技大会を神功島（鼠島）に催うせる事は既報の如きが尚其際の模様を詳報せんに当日は一天晴朗風なく波なく絶好の日和なりしかば来会者無慮一万二千に及び午前十時一発の号砲と共に各組の競泳を始め正午休憩す。此際会長西島男爵も来場さる。午後一時よりは当日の呼物たる余興泳に移りしが就中男子部の障害物競争、源平土器割は実に勇ましく女子部の花傘行列、果物むき等は美事々々と云うの外なく又最後に於ける大名行列の水中を練り行く様は恰かも陸上を行くに異ならず。非常の喝采を博せしが最後の助手、助教諸氏の揃御前泳、抜手泳等は一層*水際立ちたる技倆なりき。尚当日各組の優勝者は次の如し。

△競泳の部（丁組）1向井、2加藤、3吉田、4江下、5伯川、（丙組）（一班）1相田、2小林、3牛島、4高木、5田川、（同二班）1繁原、2田中、3清水、4廣田、5太田（同三班）1古賀、2林、3内田、4藤田、5中村、乙組（全班）1田村、2前、3小林、4林、5生島、（甲組）（全班）1井上、2稲枝、3熊本、4一の瀬、5山本

△同上女子部　丙組（一班）1伊藤、2立野、3土屋、4川口、5川崎（同二班）1日下部、2稲場、3犬尾、4辻山、5田中、乙組（全班）1吉野、2尾木、3吉田、4斗長、5藤岡、甲組1藤野、2竹村、3笠、4太田、5三栗谷

△別科　1永田、2稲枝、3井星

△二人三脚競泳　1高宮-熊本、2下野-乗富、3山城-松尾、4平石-加悦、5吉田-堀見

△提灯競泳　1松尾、2井星、3山城、4生田、5鬼塚

△障害物　1永田、2熊本、3中村、4島田、5八牧

**水際立つ**　ひときわ目立つ。

**九月九日**

●最終の競泳大会

瓊浦游泳協会にては明十日の日曜を以て愈々本年最終の競泳大会を開催する事となりたれば、男女会員は掉尾の技倆を発揮すべく数日前より獰猛の練習を重ねつゝありと云えば定めて盛んなる事なるべきが、特に当日は准会員の会費拾銭を五銭に半減すべしとの事につき一層の人出なるべし。

**九月十二日**

●游泳協会閉会

日々数千の子女を呑吐せし瓊浦游泳協会鼠島の会場は、愈々一昨十日の日曜を以て本年最終の競泳大会を行うと共に閉会式を挙げたり。甲組以下の競泳成蹟は前号記載の如くなるが、当日の見物たりし別科即ち初段以上の小ヶ倉よりの競泳は、抜つ抜れつ互いに其技倆を発揮して勝敗を争いたるが、遂に熊本、薄井、高宮、松本、平石、石田、今村、金子、堀見、永田の順序となりたり。当日会長西島男爵は陸軍中将の軍服姿にて臨場し幹部

及び一般会員に対し左の告辞を為したり。

今茲に瓊浦游泳協会の第九次練習を終るに方り幹部諸氏並に一般会員に告ぐ。

凡そ我協会の存在や之を全国各所に於ける游泳場若くは海水浴場と根底より其意義を異にするものあり。彼れにありては単に娯楽を以て目的とし、此れにありては身心の鍛錬を究竟目的となす。即ち我協会は日本の国民性を愈よ発揮すべき手段の一として方法を游泳の抜能に採る。復た以て君国に報ずるの精神に出でたるなり。幹部諸士夙に此意義の下に会員を指導し、会員また之を体して其途に励む。是に於て乎我協会の事業は歳を経て更に隆んに事蹟寔に全国に範を垂るるに至れり。之助義の衷心欣喜に堪えざる処にして、亦幹部並に一般会員も此*懐を一にするものならんと信ず。

翻って想うに、我協会の事業が斯くの如く隆昌に赴くは、幹部並に会員の熱誠其心を一にするに因れるは勿論なりと雖も、公共の志厚き大方の士人が我協会を翼賛する後援力の強大なるに基いせずんばあらず。冀わくは後援一層強大にして幹部並に会員の熱誠旺盛に、以て第十次游泳協会をして倍々存在の本義に合致せしめんことを。

明治四十四年九月十日

瓊浦游泳協会々長従三位男爵　西　島　助　義

**懐**　考え、想い